

いのち・未来 うべ通信 13号



わたしたちは原発のない安全な未来を

子どもたちに残すことを願って活動して います

〒755-0029山口県宇部市新天町1丁目2-36「青空内」 | TEL080-6331-0960(安藤携帯) | <http://blog.ne.jp/nonukes2013>

上関「原発推進意見書」決議に抗議する！
10月7日、山口県議会において自民党提出の「原子力政策に関する意見書」が自民、公明両党議員の賛成で可決されました。「意見書」の内容は国の原発政策にそって「上関原発を早くすすめよ」と言うものです。

村岡県知事は8月3日、中国電力の要求である原発建設用地田ノ浦の公有水面埋立延長を許可、他方で県議会では「原発推進の意見書」を決議し、県政あげて上関原発建設に踏み出すことを表明しました。

福島原発事故後原発新規立地は封印されていましたが、今回の県議会の動きは、国の後押しを受けて上関原発建設の動きが新たな段階を迎えたことを示しています。今回、上関原発建設促進の旗を掲げて走り回った自民、公明両党の議員たちは誰一人、原発推進を公約に掲げず、県議会では賛成の立場を表明しています。これ

～もくじ～

☆ 上関「原発推進意見書」決議に抗議する …1	☆ 一映画『日本と原発 4年後』上映会in美祢を終えて 呼びかけ人代表 中嶋恵子
☆ 第五回定期総会の報告 …2	…4～5
☆ 伊方原発の再稼働を止めよう ～現地行動に参加して～ …3	☆ 上関原発住民訴訟第16回 口頭弁論 …5
☆ 原発を止める新しい声を 原 康司(上関スラップ訴訟 元被告) …3	☆ 福島～山口いのちの会



は選挙民への背信行為であり、有権者からは強い批判をあびることになります。

中国電力の原発建設計画によれば上関町田ノ浦に135万キロワット2基の原発建設を予定しています。原発が稼働すればその日から山口県民をはじめ瀬戸内の人々は危険と背中合わせの生活を押しつけられます。また、原発の温排水によって、海はその生態系を根底から破壊されるのです。さらに、福島原発事故のような過酷事故が起きれば瀬戸内に暮らす幾百万の人々の生活は破壊され、瀬戸内は死の海になります。福島のような原発事故を再び起こさせないためには、今直面している原発建設を巡っての緊迫した情勢の本質を正しくとらえ、さらに大規模な原発建設反対の運動をまきおこすほかありませ

命の海を守れ！さようなら上関原発！10.22反原発デー県民集会に参加した人々800名は集会後、室津地区を反原発のスローガンを叫んで行進しました。



第5回定期総会の報告

去る9月11日(日)、宇部市まちなか環境学習館で24名の会員が参加し、第5回定期総会が開催されました。

車椅子で参加した仲間の車椅子のトラブルがあり、少しおくれたの開会となりました。

(1) 昨年の総括と会計並びに監査報告

(2) 上関をはじめ、せめぎ合いが激しくなる原発をめぐる動向の報告

(3) そして①原発再稼働と上関原発建設を止めること、伊方原発、川内原発の再稼働を止めるたたかいと手を結ぶ ②放射能汚染からの防御 ③発信力を強め仲間を増やすことなどの今後の方針の提案と討論があり、原案通り承認されました。

討論では、

「毎週の金曜ウォークの工夫」「インターネットの活用」

「若い人への伝え方」「原発推進の諸悪の根源である安倍政権へ迫る運動」「改憲と戦争反対と結びつく運動を」など活



発な発言があり、後半は時間が足りないほどでした。

上関原発計画が、県知事によって埋立免許の許可が出され、新しい局面に入ったことを強い危機感をもって迎えていることをひしひしと感じる総会となりました。それと同時に、当日配付しました祝島島民の会の抗議声明、原康司さんのメッセージ(3Pに掲載)に激励されて、今までの運動の蓄積に自信をもって立ち、さらに大きな広がりをつくることを確認しました。

なお、新3役は、代表・久保輝雄、副代表・尼崎安秀、事務局長・安藤公門となりました。

事務局長として牽引されてきた浜野勝さんは、しばらく激務を休み運営委員として活動していただくことになりました。

原発をめぐる情勢は予断を許しませんが、こんなときだからこそ脱原発の思いをともに強く持ち、伝え、つながり、元気に活動できることを願って総会の報告とします。

(事務局長 安藤公門)

情勢の急展開に正しく対応しよう

原発を巡る情勢は3.11東日本大震災以降、新しい局面を迎えている。中央でも地方でも新たな事態がわれわれの目の前で展開している。政府は9月21日原子力関係閣僚会議を開催し、高速増殖炉「もんじゅ」について年末までに廃炉を含む抜本的な見直しをすることで合意した。しかし、高速増殖炉の開発自体あきらめたわけではない。「もんじゅ」を廃炉にする一方で、新たな高速炉開発に着手し、核燃料サイクルをさらに推し進める方針である。この新たな高速炉開発の司令塔機能を担う「高速炉開発会議(仮称)」を設置する方針であることも決められた。つまりは、これまで原子力開発の要である「核燃料サイクル」を推進する上で手かせ足かせとなっている「もんじゅ」を切り離すことで、新たな装いのもとで原子力開発を強力に推し進めようというのが中央での動きである。この動きと連動して地方では、原発再稼働、さらには増設、新設の策動がにわかに活発化してきている。山口県においても、これまで時間稼ぎに徹していた県知事が「公有水面埋立許可」の決定、県議会での「原発推進決議」強行採決等々、まさに中央と地方の原発推進勢力の反転攻勢が展開される新局面の情勢である。

こうした情勢に正しく対応し、会員の皆さんが連携を強め、一人一人持てる力を発揮して新しい運動を作り出して行くことが一番大切なことです。

(いのち・未来 うべ代表 久保輝雄)

伊方原発の再稼働を止めよう ～現地行動に参加して～

岡本 正彰

集会は公式発表で、700～800人と言われていました。最近よくご一緒になる、山口のご夫妻も来られていました。奥さまが僕と同じ脳性まひの重度障がい者で、熱心なご夫妻です。



天気は良かったのですが、僕的にはバテるほどの暑さではなかったです。

ゲート前に移ってのアピールでは、僕も障がい者の立場からアピールしました。

前々から話していることですが、「障がい者にとって最大の避難計画は脱原発」だということ、それを少し変えてアピールしました。訴えることは、そのたびに変える必要はないと思うし、変えないことで思いの強さが伝わってほしいです。健常者の避難計画だって怪しいのに、障がい者・高齢者の避難計画なんて考えていません。今の政府と電力会社に、それを考える術も心もありません。

「戦争と障がい者」のことにしても障がい者はもっと連帯し、それを健常者が一緒になって戦争法反対の運動へと大きく引き上げる構図、関係が作れたらよいのですが、それがまだバラバラなのは、障がい者、障がい支援者は施設の予算の関係で、現政権に反論できないという実情がどう見てもありそうです。それを崩すことが今後の課題だと思いました。山口のご夫婦、考えられる人からの知恵をかりながら、障がい者で原発反対のつながりを作りたいと思います。関心のある方はぜひ連絡ください。

原発を止める新しい声を

原 康司 (上関スラップ訴訟 元被告)

6年8か月にわたるスラップ裁判の支援本当にありがとうございました。

今回の裁判の結果はみなさんの物心両面からの支援に助けられ、そして導かれた結果だと本当にうれしく思っています。一つ肩の荷が降りたというのが正直な気持ちでもあります。

勝利的和解という結果を勝ち取り、報道でも損害賠償請求を放棄したという点で好意的に伝えられていたと思います。その点でいえば素直に喜ぶべきだと僕自身思っています。しかし現実にはそうも言っていない状況です。

我々の目指すところは上関原発の白紙撤回です。その点で見ると8月3日に埋め立て免許の延長が認められた以上は、裁判前より今の方があきらかに危機的状況であることは間違いありません。いつ埋め立て工事が始まってもおかしくないのです。田ノ浦の現場では中電が看板を書き換えています。だから勝利的和解をしたからといって、いつまでも浮かれていることはできません。

埋め立て差し止め訴訟や自然の権利訴訟、そして県民が原告になり広がりを見せている行政訴訟にも支援の輪を広げなければいけません。3年後の再びやってくる延長申請のことを考えると、2年後の山口知事選も本当に大事で勝てる候補者の擁立を急がなければなりません。

一頑張り！一応援するよ！それも大事です。でもそれだけでは上関原発は止まらないと思います。原発に反対する我々一人一人がそれぞれの意思とやり方で自由に行動を始める。個々の大きなうねりが各地で抑えきれないほど大きくなったときこそが、上関原発が白紙撤回になる日だと思います。

「今自分に出来ることは何なのか？」それを一生懸命考えて行動していきます。

これまでの繋がりを大切に、そして新しい声があがるきっかけになるような活動をこれからも続けていきます。「自分がんばれ！」これからのキーワードですね。

宇部のみなさん、ありがとうございました。

—映画『日本と原発 4年後』 上映会in美祢 を終えて—

ずっと私の心の中にあつた原発に対する気がかりについて、ドキュメンタリー映画『祝の島』を観に行くというところから「思っていることを具体的に行動に移す、ことが始まりました。

それがきっかけとなり、「第1回上関原発を建てさせない山口県民大集会」への参加、映画『日本と原発』の菊川と宇部での鑑賞、そして、美祢での『日本と原発 4年後』の上映へと繋がっていきました。

いつから、どのような経緯でこうしたことに関心を持つようになったのだろうと記憶を辿っていくと、下関市民劇場に入会して多様なお芝居を見続けてきたからで、その土壌の上に、絶妙のタイミングで、林神父さまとの出会いがあつたのだと認識できました。

そして、運営に関しては、15年前、会員によって運営されている下関市民劇場の現場に初めて足を踏み入れ、何もわからないままに幹事を引き受け、学びつつ実践し、その体験からさらに多くの学びを得ていく中に、それまでの数々の経験と信仰が相まって、私の物事に向き合い、取り組む姿勢の根幹が出来上がっていったと思われまふ。

「今回は劇団を迎えるという大掛かりなことではないけれど、ドキュメンタリー映画で客観的に描かれているとはいえ、原発の映画を美祢で上映するという挑戦的な試みに、垣根を越えて橋を作るということに対して私自身どこまでやるか決めかねていました。私に声をかけられた皆はそれぞれに不安や戸惑いや躊躇もあつただろうと推察されますが、誰一人反対したり拒んだりする人が居なかつたことは、これからやろうとしていることは間違っていないんだと、私に自信と勇気を与えてくれました。

テーマが原発ということで、そう簡単にはいかないだろうと覚悟を決め、拙いながら今までの私の経験をすべて注ぎ込んで、より注意深く取り組みました。先ず、美祢市に後援申請をしたところ、担当職員が、誤解を招かないように

と添付していた書類の確認もしないで、チラシをみただけで原発反対運動をしている団体のように決めつけて、不承諾通知を送ってきました。その夜、私は副市長さんに直接電話し、後日、会って後援承諾を頂きました。美祢市と美祢市教育委員会の後援があるのとなないのでは、その後の展開がまるで違って来るからです。

この時の経験から、一作目のよりインパクトがある今回のチラシは美祢のような田舎では刺激が強すぎて、誤解されたり、敬遠されたりする可能性があるのでは、緩和する為に呼びかけ文を作ってチラシとセットにして配ることにしました。

私が最初に声を掛けた11人からスタートした「美祢で観る会」は、一回一回丁寧に、7回にわたる会議を重ね、徐々に必要とされる人が必要なタイミングで仲間に加わり、最終的に21人にまで増えていったことは、皆の励みになったと思います。

更に、昨年宇部での上映の主催者である「上映を成功させる会」の方々が、物心両面で後押しをしてくださったことは大変心強く有難いことでした。

当日の運営がスムーズに行われるようにとメンバーそれぞれが細心の注意を払って準備を進めたお陰で、笑顔と気配りのおもてなしにより心地よい鑑賞空間を創り出せたのではないかと思います。以前からの知り合いも、初対面の人も、一つの目的のために集い、それぞれが知恵を出し合い、率直な意見を交換し合い、回数を重ねていく中で連帯が生まれ、関係性が深まり、ひとりひとりが自分の得意分野を活かし、自分にできることに自発的に主体的に取り組んで、素晴らしい会へと醸成されて行きました。そうして出来上がった会のメンバーの持つ、明るく元気に大変なことを楽しみながら自然体で成していくほのぼのとした雰囲気、当日、来場者のアンケートに「実行委員のお仕事ぶりに感動した」とあるように最高の形で花開き、更に、山陽小野田市での上映会実現に微力ながら貢献出来たのではと思います。

また、酷暑の中、こちらからはなかなか頼み

にくいことを察してか、男性4人が自発的に手を挙げて駐車場係を引き受けてくださったことは大変有難かったです。わざわざ宇部から持ってきていただいた案内板も大変役に立ちました。有難うございました。

試写会と昼夜合わせて274名の方に観ていただくことが出来ました。

当初の目標は、昼夜合わせて300でしたが、それぞれの地道な活動により、最終的に391枚を売り上げ、318,600円という金額になりました。

お陰で、この売り上げからすべての経費を賄うことが出来、宇部の「上映を成功させる会」から頂いた応援のカンパは、そのまま「美祢で観る会」から山陽小野田市の実行委員会へと、映画上映のリレーと共に応援カンパのリレーが出来ることは、大きな恵みで、文字通り汗を流し努力を積み重ねてきた私たちへのいちばんのご褒美だと思いました。

上映会終了後に、急遽決めた、アンケート集計結果をまとめて発信、拡散するという大変な作業も皆の協力を得て行われ、予想通り、反響をいただいております。

単なる映画上映イベントなら成功して良かったね！で終わるところですが、アンケートへの書き込みの状況からもわかるように、この映画の持つ意味、意義、役割を考えた時、映画『日本と原発 4年後』を知った、観た、上映した私たちは、“これから”を考える必要があるのではないのでしょうか。

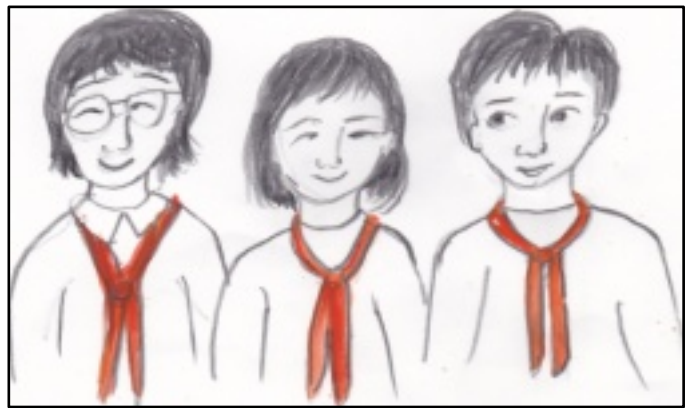
アンケートの中に、これからも伝えてください、各地で上映してほしいという意見が多くありましたが、誰かに任せるのではなく、ひとりひとりが自分のこととして自分に何が出来るのか考え、そして、行動に移さなければいけないのではないかと、でなければいつまでたっても変わらないだろうと思います。

そのことを伝えるためにも、この映画をきっかけにして出会った私たちが、3月から半年の時間をかけて心を込めて丁寧に紡いだ糸を大切に、呼びかけをしていく過程で点と点が繋がって線となり、面へと広がって出来た、様々な取

り組みや活動をされている方々との繋がりをも縊り合せてこれから更に太い絆にして行く為に、知らせ、広げ、つながる行動の可能性が広がっていく事を望みます。

この出合いを活かし、更に高みを目指して、私たち人間も自然の一部ですから、謙虚に、地球環境を、ひとつひとつの命を大切にして、未来の子供たちへリレーして行く為に、ひとりひとりが、何かと何かを繋ぐための架け橋になる生き方をしたいものです。

映画『日本と原発 4年後』を美祢で観る会
呼びかけ人代表 中嶋 恵子



この素晴らしい映画を多くの人に観ていただきたいという熱い思いと私たちの呼びかけに応えていただいた人々への感謝の気持ちを表すためにおそろいのユニフォームでお迎えしました。

原発住民訴訟第16回口頭弁論

第16回口頭弁論が、9月14日山口地裁で開かれ、被告の県側が、“黒塗り文書”の開示に応じ、埋立免許の延長申請を4年近く引き延ばした不当・不法性が裏付けられました。

さる8月3日、知事が延長を許可したことから開示を拒否出来なくなり、文書提出になりました。公判後の報告集会で田川章次弁護士は「住民訴訟のヤマ場の1つといえる。公開文書の核心はズルズルと判断を引き延ばし、いかに中電の埋立延長を認める条件を整えるかということにつき、県の不法性を裏付けるもの。今後、8月3日の知事認可を取り消させる裁判も検討し、上関原発を建てさせないために、中電・県を追及していきたい」と強調しました。

次回は11月16日14時からです。

海水浴やビニールプールに 大はしゃぎ！

福島～山口いのちの会

4回目の夏の保養受け入れ

東京電力福島第一原発の事故で被災した福島や東日本の子どもたちの保養活動に取り組んでいる「福島～山口いのちの会」では、4回目となる保養受け入れを8月6日から18日にかけておこなった。今回は親子を対象に募集し、3家族10人（うち子ども7人）を、日本キリスト教団小郡教会に宿泊させてもらい実施した。前半は2家族、後半は1家族に分けて受け入れた。



最初の2家族は5人の女の子、全員が元気いっぱい。原発事故後は、海水浴場も閉鎖されたため、海水浴が初めての子もいて、下関市土井が浜海水浴場ではプールとは違う海の波や塩辛さにびっくりしながらも、きれいな海での泳ぎを堪能していた。

教会の夏祭りでは信徒さんと一緒にバーベキューやスイカ割り、花火などを楽しんだ。また、教会の裏庭のビニールプールで毎日、日暮れまで水遊びをして大はしゃぎだった。

後半の男の子兄弟は、一の坂川周辺の探索や、鉄道旅での下関、小倉観光、萩市内の産業遺産見学などで過ごした。

猛暑続きだったが、外で思いっきり遊べてストレスも発散できたようで、ニコニコうれしそ

うな子どもたちの笑顔を見ていると、スタッフにとってはやってよかったと思える瞬間である。



私たちの保養活動の取り組みは、数多くの人たちの援助、カンパによって支えられている。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

お母さんからは、政府や福島県が帰還政策を推し進める中で、放射能に対する不安や保養の話をするのが難しくなっていることを聞いた。一方では、今年3月に福島県が発表した健康管理調査では甲状腺がんやその疑いがあると診断された子どもは175人にのぼっており、不安はますます強まっている。

福島第一原発事故による放射性物質は現在なお放出され続けており、子どもたちを放射能汚染から守るための一助としての保養活動はますます重要になっている。

心強いことに、県内でも子どもたちの保養活動に取り組む人たち・地域が増えている。福島や東日本、全国、そして山口の人たちと連携して保養の取り組みを続けていきたい。

福島～山口いのちの会・〇

金曜ウォークへ参加の呼びかけ

毎週金曜日、各自手作りのプラカードを持ち、宇部市役所正面玄関を、18時に出発して宇部新川あたりで折り返す、静かな原発反対行動をしています。今年6月3日でこの運動を始めて200回目の記念すべき日を迎えました。

みなさんのご参加をお願いします。

スラップ訴訟6年8か月の裁判を ふり返って!!

中国電力の4800万円損害賠償スラップ(恫喝)訴訟は、8月30日、勝利的和解が成立し、中国電力が主張する損害賠償を全額放棄させました。2009年12月15日賠償訴訟から6年8か月の間に、18回の口頭弁論、12回の各被告の意見陳述、4回の各被告の証人尋問、その他裁判進行上の打ち合わせ(裁判協議)などを行いました。

これら裁判の過程で、中国電力の賠償請求の根拠が彼らの都合に合わせて作られたことが明らかになるなかで、裁判を続ける見通しがたたなくなっていました。

中国電力のスラップ裁判の目的は、上関原発建設白紙撤回の運動の先頭に立った4人を損害賠償の手段でつぶし、34年のたたかいを破壊する狙いをもっていました。

判決当日、山口地裁前には家族や支援者120人が集い、元被告を迎えて勝利の集会が行われました。まず、弁護士から「勝利的和解成立までの6年8か月の長い間、くじけず闘いぬいた元被告の皆さんに感謝する」と元被告の労をねぎらいました。地裁前の集会後、近くの会館で報告集会が行われ、弁護団から勝利的和解の評価について「中電に損害賠償を全額放棄させ、今後の上関原発反対運動に関して一切の表現、行動について制約を受けないことを中電が認めた」と報告があり、参加者から大きな拍手と賛同が示されました。

清水敏保さん(祝島島民の会代表)から「皆さんの支えにより今日を迎えることが出来ました。上関原発建設白紙撤回されるまでみんなとともにがんばります」と感謝と決意が述べられました。

祝島漁民として公有水面埋立を身体を張って阻止した橋本久男さん(元被告)は「皆さんの支えがなかったら、今日こういう会は開かれていないと思う。これからも皆さんとともに闘っていきたい」と述べられました。

清水康博さん(家族 祝島島民)は「成人になって4月から祝島に帰って島民の皆さんといっしょに原発問題に立ち向かっていけるようになった。

中電の動きがあって、父に何かあれば自分の意志で自分がやってやろうと思っている」と述べ、この間の闘争で心強い後継ぎも成長していることが明らかになりました。中国電力の理不尽な訴訟で引き起こされた6年8か月のたたかいは、元被告、家族、支援者が上関原発と向き合いどう生きるのか自らに問いかけ、勝ちとった勝利的判決であります。

スラップ裁判の応援団長である詩人アーサー・ビナードさんは「本当のたたかいの現場は法廷ではなく海だ。私たちの愛する瀬戸内海を守るには、上関原発建設を白紙撤回させるまでの運動が問われている」と方向を示してくれました。



私は幾度となくスラップ裁判に参加しましたが毎回広島からバスを仕立てて参加される元被告、家族、支援者の方々の熱意に心をうたれました。6年8か月の苦難にみちた裁判闘争は上関原発反対運動を広島を初め全国に広める大きな役割をはたしました。また、山口県の私たちにも大きな力をそえて下さったと思います。

来年度の「上関原発を建てさせない山口県民大集会」開催について、日程と開催場所が確定しました。

【日時】 2017年3月25日(土)

【場所】 維新公園ビッグシェル(野外音楽堂)と
その周辺

集会の日時、場所と骨格だけは確定しましたが、集会の中味や今後どのように組織して行くかは11月以降になります。県民のみなさんの積極的な参加を期待します。

安倍政権と東電の謀略に 新潟県民、怒りの鉄槌！！

柏崎刈羽原発の再稼働について、是か否かを巡って激しくたたかわれてきた新潟県知事選挙は、再稼働反対を鮮明に掲げた米山隆一氏が、6万票余の大差で自民、公明が推す森民夫氏を破るという快挙をもたらした。

政府、東電は当初から原発再稼働と原発新規立地を進める目的で周到な準備を進めてきた。

「福島原発事故の検証すら進んでいない状況の下で再稼働などもってのほかである」と主張する泉田知事に、地方紙「新潟日報」（東電お抱えの御用新聞）を使ってスキャンダルをデッチ上げ、県議会原発推進派議員も動員して執拗な圧力をかけ、ついに泉田県知事を出馬断念に追い込んだ。急遽、地元の原発再稼働反対派は米山隆一氏を擁立したものの告示直前のことであった。自民党はこうして対立勢力の力をそぐ一方で、長岡市長を自公推薦の候補者に仕立て上げ、新潟県内の首長からも支持を取り付けるなど万全の構えで選挙戦に乗り出すことになった。こうして選挙戦序盤の情勢は誰の目にも森氏の圧倒的優勢から始まった

米山氏はこの選挙をたたかうに当たって「東京電力福島原発事故の検証や重大事故の避難計画が不十分な状況では再稼働は認められない」との公約を掲げ、泉田県知事の主張を継承する立場を鮮明にしてきた、米山氏の選挙運動中の奮闘ぶりは、選挙中盤では「先行している候補がようやく視界に入ってきた」、選挙運動終盤では「対立候補の背中に手をかけることが可能になるところまで追いつめつつある」、選挙直前では「横一線、あるいは追い抜いたかも」という評価に端的に示される。

つまり、信じられない勢いで相手候補を追いつめ、最終的に相手候補を打ちのめし、完璧な勝利をたたかい取ったということである。

この劇的な結末を演出したのは、いうまでもなく新潟県民の、自民党強権政治に向けられた怒りである。新潟県民はこの選挙運動の全過程で展開された政府と東電の、国家権力と札束の力で、ときには非合法的手段をも駆使した恫喝

と懐柔の汚い手口をあまねく知ることとなった。

投票の結果は投票率において前回県知事選から9.1%増、18万人が新たに投票に参加したことになる。マスメディアの出口調査では投票の際、最も重視した政策の第一位は再稼働反対と答えた人は29%で、その84%が米山氏、15%が森氏、無党派層の63%が米山氏、34%森氏、民進党支持層の85%が米山氏、14%が森氏等々が明らかになった。政府と東電が血道を注いでこの選挙戦からの民進党の離脱を計り、再稼働反対派の勢力をそごうとしても、「原発反対」が争点に上った以上なんの効果をもたらさなかったことを物語っている。世界最大の原発立地点での新潟県民の意思表示は、国際的にも国内的にも今後の原発反対闘争に激励を与えるに違いありません。

政府は年末に向けて原発の核燃料リサイクルを中核とする新たな原子力開発計画を再出発させる方針を掲げたばかりである。今回の新潟での勝利は原発をゴり押しにする政府の原発政策に強烈な打撃を与えることになりました。

われわれも全国各地の持ち場で、確信を持って原発反対闘争の発展のために頑張りましょう。

編集後記

今号の編集作業終了間際に大きなニュースが飛び込んできました。原発再稼働を巡って激しくたたかわれていた新潟知事選での劇的勝利の報道です。全国でたたかわれている原発反対運動に大きな励ましとなるに違いありません。

上関原発建設を巡る動きは、村岡県知事の公有水面埋立延長許可をはじめ、県議会での自公による原発推進意見書が強行採決され、新たな局面を迎えました。他方、美祢地域における「日本と原発4年後」上映活動にみられる大きな成功と引き続く山陽小野田市での取り組みが始まるなど、原発に反対する気運も大きく高まっています。

美祢地域で、成功に導いた中心メンバーの一人中嶋さんより貴重な体験をよせていただきました。是非一読していただきたいと思っています。

編集部